

日本留学海外拠点連携推進事業 中間評価所見

採択機関（担当地域）名：北海道大学（ロシア・CIS）

○ 実施委員会による評価を踏まえた所見

1. 全体の進捗状況

きめ細やかな情報収集・分析とともに、現地のニーズ等に合わせて柔軟に対応しながら事業を推進するなど、多様性が高い地域でも、それぞれの特質にあった活動が適切に行われている。同地域からの留学生数及び留学フェア参加者数が大きく増加しており、これまで必ずしも多くなかった日本への留学希望者を掘り起こそうとする試みに期待ができる。また、日系企業との連携や中等教育機関（高校生）への対応などの視点は重要であり、他地域においても参考になると思われる。

2. 成果指標（※）の進捗状況

再委託先も含め、それぞれの担当地域において、積極的な情報収集とその分析を踏まえた情報発信が活発に行われており、成果指標も概ね目標値を上回っている。また、在学段階に応じたリクルーティング活動や現地機関との関係構築により質の高い学生発掘に努めている点も評価できる。

検討段階のものを今後着実に実施するとともに、帰国留学生との連携やネットワーク構築等、現状至らない部分の分析をした上で計画が進められていくことを期待する。

3. 実施体制の構築・活動状況

それぞれの地域を担当する大学の特色を生かした取り組みや、これまでに行われてきた関連事業との連携が意識された活動が行われており、様々な関係機関等を巻き込んだオールジャパンでの推進体制となっている。また、留学コーディネーターが有する知見や高い能力を活かしつつ、現地の高校・大学への訪問等の地道な努力を重ねている点も評価できる。

今後、留学コーディネーター同士の更なる連携や、現地に拠点を持っていない大学等との連携も必要である。

4. 今後の実施方針についての検討状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、HPコンテンツの刷新やオンラインイベントの実施等、オンラインの活用が進められており、地域の特質や学生の多様なニーズをくみ取って対応する姿勢が認められる。企業関係者を包括した取組も継続的に行う価値があるものと考えられる。

委託期間終了後も、委託先大学及び再委託先大学の継続的な活動体制は認められるが、その活動が、当該大学だけでなく、日本の大学に広く共有され、全体に寄与するような仕組みづくりの検討に努める必要がある。

※ 実施計画書における成果指標①「留学に関する情報収集・発信（既存機能の更なる強化）」、成果指標②「優秀な留学生獲得に向けたリクルーティング活動促進」、成果指標③「帰国留学生とのネットワーク構築及び広報・リクルーティング活動における協力深化」